

ブズブズッ!

「おほくはるかちゃん、の処女マンコゲット〜!!
さすが未使用マンコキツキツだね〜
オチンポすっごい締め付けてくるよ
変なやつに渡された道具でまさか本当に
催眠できるとは、いいもの貰ったわ♪」

「それにしても、はるかちゃんは
まだ生えてないと思っただけ
意外とアソコの毛、生えてるんだね
ほくのチン毛とはるかちゃんのマン毛が
絡まっちゃいそうだよ?
もしかしてちよっと気にしてたり
するのかな?」

ぱんっ♡

ぱちゅ♡

ぱんっ♡

ぱちゅ♡

「ふふふ、いつも笑顔で挨拶してくるはるかちゃん♡
他の女子生徒からは、いやらしいだけ
言われたい煙たがら目つきには、ちんだけ
ほくわみたくなた年中、独身用務員なんか
挨拶してみたいな、これですごい嬉しかっ
それなのに、はるかちゃん、ごめんね♡
でも、そのなには、かっちゃん、ごめんね♡
こうしたいはるかちゃん、ごめんね♡」



「ふうふう！ はるかちゃんのママン」
 めっちはるかちゃんもほくのオチンポ
 気持ちいいでしょ？」

「あっ♡あん♡はい♡私も♡
 さん♡♡用器さんのおちんぽ♡
 すごく♡気持ちいいです♡」

「あゝはるかちゃんの声かわいすぎ
 めっちはるかちゃんのママン
 成長途中の懐かしやかな
 おっぱいもかわいし
 最高の身体だよはるかちゃん♡
 もっともってあげたいはるかちゃん♡
 オマンコ突いてあげないから
 そのかわいエツチなあえぎ声
 たくさん聞かせて欲しいな♡」

ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡

「あゝはるかちゃんのママン
 おっぱいもかわいし
 ああ♡♡♡」



「んあん
おあつ
つっっ
♡♡♡
おおつ
つほつ
つ♡♡
おおあ
あつっ
♡♡♡」

「おほほ、すごい声、さすが催眠
いっつも元気で明るい純粋な
かわい子はるかちやんが
ほくもの笑顔から想像できないような
エロい顔をして喘いでるよ
ちよっと前までランドセル背負ってた
はるかちやん犯すのマジ興奮するわ
そういえばなるかちやんの夢って
プリンセスなることだったよな
将来のお姫様がそんな声出してないよ
アへ顔お姫様と変わらんよ
それじゃ娼婦と変わらないよ
はるかちやん♡」

「おっ♡おほっ♡んおっ♡
おっ♡おあつ♡あぐっ♡
んおっ♡おっ♡おごおっ♡」



ばちっ♡

ばちっ♡

びちっ♡

ばちっ♡

「まあ王子様とはかけ離れた
中年のプリンセスとか価値ないし
中古のプリンセスとか価値ないし
お姫様になつたところで王子様になんか
見向きもされないとくせう♡
でも安心してはるかちやん♡
はるかちやんが例え中古マンコになつても
オホ声出しながらアへ顔するようになつても
なづくあげるからね♡」



んおん♡

びっ♡

じっ♡

おほ♡

びっ♡

びっ♡

びっ♡

「あくやば…っ！ すげえ出るっ！
はるかちゃんの未成熟な子宮に
ぼくの底辺精子流し込んでるっ！
ふうふう…やばい、めっちゃ気持ちいい
あくはるかちゃんのおマンコ最高だったよ
はるかちゃんも気持ちよかったよね
ぼくのオチンポ♡」

「はあ…ああ…ああ…ひゃい♡
わらしも…んっ♡あ…ああ…
用務員さんのお…おちんぽお♡
あう…んお…すごく…んああ…♡
気持ちよかったです♡」

「そっかそっかそれはよかった
互いに気持ちよくなれるなんて
きつとぼくたち運命の相手同士なんだね
大丈夫、このままはるかちゃんのお腹が♡
大きくなって学校にいらなくなるからね♡」
ぼくがちゃんと守ってあげるからね♡」

「だってぼくがはるかちゃんの
王子様なんだから♡
だからはるかちゃんもぼくのために
これからは毎日そのかわいなおマンコで
ぼくのチンポ気持ちよくしてね♡」

「はい…♡用務員さんは
私の王子様です♡
これからは用務員さんのおちんぽが
気持ちよくなれるように♡
はるかちゃんのおまんこ♡
いっばい使ってください♡」











